

生き活き関西 ～ “健康・医療”先進地域ビジョン ～

(略称:生き活き関西ビジョン)

【改訂版】

平成27年2月 第53回 関西財界セミナー 第1・第2分科会にて策定
平成28年6月 第54回 関西財界セミナー 第5分科会の討議成果を踏まえ、
健康・医療/都市再生・特区合同専門委員会にて議論の上、改訂

(健康・医療分野)
市場動向

日本をはじめ、先進諸国や新興国での高齢化進展・医療ニーズの多様化により、**健康・医療市場は拡大へ**

(参考)日本再興戦略:市場規模

国内市場 16兆円 (2013年) → 26兆円 (2020年) → 37兆円 (2030年)

海外市場 163兆円(2013年) → 311兆円(2020年) → 525兆円(2030年)

【関西のポテンシャル】

- ・製薬企業が道修町を中心に集積し、また介護ロボットや食品、運動等の健康・医療関連企業も集積しており裾野が広い
- ・臨床研究中核病院等や先進的研究機関が配備(京大,阪大,神戸大,国循,医薬基盤研,先端医療振興財団)
- ・産学官が連携し、シーズの事業化を推進する仕組みや仕掛けが存在
(DSANJ,MDF,近畿バイオイノベーション振興会議,健康科学ビジネス推進機構,リサーチ・イノベーション推進プログラム)
- ・京阪神大学、科学技術基盤(SPring-8,京)他による“知の集積”
- ・バイオクラスターが各地に形成～発展
- ・うめきた にPMDA関西支部や基盤研創薬支援戦略室が設置、加えてアカデミアや製薬企業が所在

【情勢変化・将来】

- 高齢化・人口減少
 - ・世界に先駆け、日本は超高齢社会に突入
(関西は高齢者増加比率の伸びが全国と比較して大きい)
 - ・低い出生率と、生産年齢層における精神疾患増加により労働力が低下
- 地域医療・保険制度
 - ・地域間医療レベル格差が発生(医師不足、救急対応等)
 - ・国民皆保険制度:1人当りの医療費は右肩上がり
(少子高齢化、生活習慣病罹患者の増加等による)

【至近の政策動向】

- ・日本再興戦略にて「健康寿命延伸」「健康産業活性化」が掲げられる。
- ・健康・医療戦略策定(日本医療研究開発機構が中核機能を担う)
- ・薬事法改正、再生医療新法が制定
- ・(国際戦略総合特区に続き)京阪神が国家戦略特区に指定
→「医療イノベーション拠点、チャレンジングな人材集積による国際都市形成」を目指す
- ・医療等分野における番号制度の活用
(例:マイナンバー制度のインフラを活用した、医療等分野の情報連携の識別子(ID)の導入)
- ・多極ネットワーク型コンパクトシティ(持続可能な都市・地域経営と人・モノ・情報の高密度な交流によるイノベーション創出)

(都市機能)
基盤整備

- ・うめきた 2期整備をはじめとする都市再生
(「ライフデザイン・イノベーション」をテーマとして設定)
- ・新たな医療クラスターの形成(吹田:国循)

(事例)

- ・新関空会社、阪神港 → インバウンド・アウトバウンド、物流拠点整備、関西国際観光推進本部の設立
- ・高速道路の整備拡張
- ・リニア中央新幹線全線同時開業に向けた取り組み

健康・医療分野への取組みにおける理念と、関西の経済界が中心となって目指す将来像

健康・医療分野への取組みにおける理念

理念を具現化するための主なポイント

関西で取り組む意義

経済界の取組みにおける3つの柱

目指す将来像

普遍的な願望であり、持続可能な社会を支える“健康”の実現 → 日本の発展(経済,国際競争力)

<p>各ライフステージにおけるQOL向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 健康増進の促進 治療から予防への転換 多様な患者ニーズに応じた医療の選択 	<p>健康寿命の延伸</p> <ul style="list-style-type: none"> 健康寿命を延伸し, “自分らしく生きる(死ぬ)”ことを実現 	<p>超高齢社会・生産年齢人口減少への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会的コスト,個人負担の低減 高齢者の消費意欲の維持・向上 労働力の維持・拡大 	<p>最先端健康・医療産業の発展</p> <ul style="list-style-type: none"> アンメットメディカルニーズへの対応 新たな市場の開拓(国内外) 雇用の拡大 	<p>日本経済成長への貢献</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本の強みを活かし, 成長産業として経済を牽引 健康増進により, 社会全体の経済活動を底上げ
--	---	--	---	--

健康・医療に取り組むことは、**経済界にとっての社会的使命であり、大きなビジネスチャンスでもある**

<p><ライフサイエンス・メディカルケア></p> <ul style="list-style-type: none"> 製薬・医療機器関連企業や大学、研究機関、科学技術基盤等が集積し、ポテンシャルが高い 国際戦略総合特区での取組みに加え、国家戦略特区に指定され、規制緩和に追い風 	<p><関連産業></p> <ul style="list-style-type: none"> 介護ロボットや食品、運動等の健康・医療に関連する企業が集積しており、裾野が広い “商人のまち”関西らしい本音のコミュニケーションができる文化・風土 	<p><まちづくり・インフラ></p> <ul style="list-style-type: none"> 国内及び、海外から人・モノを呼び込む観光資源やインフラ(関空,阪神港等)が充実 東京と共に日本の双発エンジンの役割を担う関西が率先して牽引すべき事項
---	---	--

柱1

関西の英知を結集し、世界に先駆けてイノベーションを起こす

→ 付加価値額が高い知識集約産業として、いかに関西ひいては日本の強みをいかに発揮するか

柱2

歳を重ねても生き活きとした人生を送れる、人に優しいエリアに成長する

→ 幅広い産業への水平展開をいかに実現するか
→ 企業やコミュニティを支える健康増進をいかに実現するか

柱3

魅力的で活力のある都市創造を推進し、人や企業などを呼び込む

→ 高齢化・人口減少を見据えた都市創造、持続可能な地域づくりができるか
→ 関西のポテンシャルを最大限発揮し、国際競争力を発揮できるか

関西における“健康・医療産業発展および健康社会”の実現

ビジョン全体の構成

健康・医療分野への
取組みにおける
理念

普遍的な願望であり、持続可能な
社会を支える“健康”の実現

社会的使命

日本の発展(経済,国際競争力)

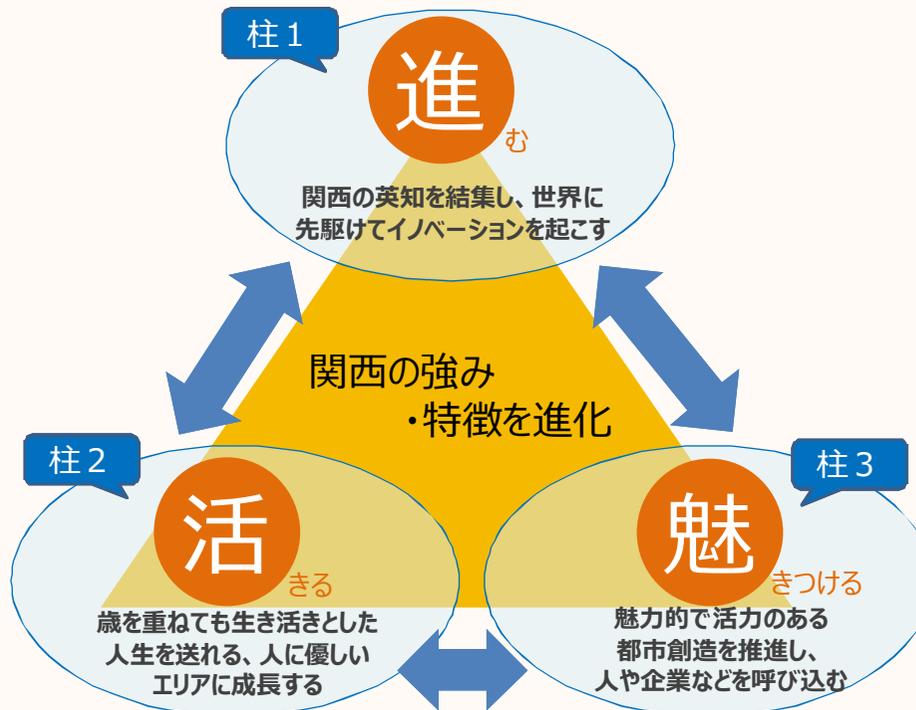
ビジネスチャンス

関西で取り組む
意義

・健康・医療イノベーションのポテンシャルが高い。
・国際戦略総合特区、国家戦略特区に指定。

・関連産業が集積。 ・日本の“双発エンジン”としての役割。
・観光資源、交通インフラが充実。

ビジョンを支える3つの柱



3つの柱ごとに、
論点, 課題を抽出
↓
具体的なアクション
を実行
↓
産学官“民”による
「共創」「循環」を
促進

関西における “健康・医療産業発展及び健康社会”の実現

10年程度先に“目指す姿”(=ありたき姿*)

*ありたい姿+あるべき姿

- ① 革新的医薬品・医療機器に加えて、新たな突破口である再生医療の開発・市場投入が進むことで**関西が日本・世界をリード**
- ② 関連産業において、“**関西発**”の新たな商品やサービスが**日本・世界に次々と展開**
- ③ 新たな高度医療拠点が形成され各クラスターと連携することで、**世界トップクラスの健康・医療基盤**となる
(→ 国内外の**企業や患者が関西に集まる**)
- ④ 従業員やその家族等の**健康維持・増進による企業の発展**
(労働生産性や消費意欲の向上)
- ⑤ 都市・地方で住みやすい(老いやすい)環境・医療整備が進み、**関西が魅力あるまちとして成長し続ける**

①～⑤が好循環を形成し新たな成長モデルとして更なる飛躍を遂げることで、関西が日本の双発エンジンとしての役割を果たす

3つの柱と主な論点・課題

柱	論点	課題
柱1 進む	① 医薬品・医療機器・再生医療等が成長産業として世界に打って出るための課題と、将来の展望	a) 基礎研究～実用化までの橋渡しの重要性 b) イノベーション創出のための早期承認・審査機能の充実、規制・制度改革の実現 c) 各クラスター間の相乗効果を生み出すための連携・活用 d) 最先端医療の海外展開 e) 知識集約産業における優秀な人材の確保・育成
	② 新たなニーズに応じた、これからの医療の在り方	f) 希少疾患・精神疾患等の治療の実現に向けた医療ビッグデータの利活用 g) 多様化する国内外の患者ニーズへの対応、並びに新たな“ビジネスチャンス”の獲得
柱2 活かす	③ 健康・医療関連産業への水平展開	h) セルフメディケーション,OTC等の有効活用による、社会的コスト・個人負担の低減 i) 測定・計測技術,食品,運動等による日々の健康作りの実現 j) 関連産業が有機的に連携できる環境整備 k) より効果的な予防・未病サービスの展開に向けた医療ビッグデータの利活用
	④ 健康社会実現による労働力の確保、健全な消費意欲の維持・拡大	l) 企業における従業員のメンタルケア、活力維持・業績向上に繋がる“健康投資”の取り組み m) 消費拡大に繋がる地域住民の健康増進に向けた取り組み
	⑤ 東京オリンピック・パラリンピック、関西ワールドマスタースゲームズ2021等を契機にした健康社会形成に関する意識づくり	n) 無関心層も巻き込んだ健康意識づくりのための啓発活動 o) 健康な暮らし(食事・睡眠)、住まい方、在宅ケア等のあり方
柱3 魅きつける	⑥ 超高齢社会・少子化社会におけるまちのあり方	p) 社会的コスト低減のための地域医療・インフラ構築のあり方 q) 高齢者に対する医療負担や、終末(ライフエンディング・ステージ)を考えた地域づくり r) 安心して出産・育児ができる都市創造 s) イノベーション創出の基盤となるソーシャルキャピタルの醸成に向けた、企業人や地域住民の健康意識の向上
	⑦ サイエンス・テクノロジー・ナレッジが融合した中核都市のあり方	t) 高度医療機関の都市への設置 u) 人や企業の関西への呼び込み v) 健康・医療を始めとするナレッジと市民の融合

経済界としての目指すべき方向性と、具体的なアクション(例)

関西における“健康・医療産業発展および健康社会の実現”に向け、各主体が住民・患者視点での事業やサービスの創造・提供に取り組むと共に、経済界として以下の取組みを行う。

柱1

進む

方向性

イノベーション早期創出に向け、環境整備やオール関西での企業間・産官学・クラスター間の連携強化を行うと共に、その成果を国内外に発信する。

具体的なアクション(例)

- ・独法等関連機関の関西拠点の設置・機能拡充のための、政府への積極的な要望・提言(例: AMED, PMDA)
- ・国家戦略特区や規制改革会議等を活用した中央・地方における有効な規制・制度改革の実現(例: 再生医療で適用された条件・期限付き承認を機器・特定の医薬品に選択適用 ⇒ 2015/11 特区医療機器薬事戦略相談の実施が認定。治験期間の短縮により、開発から市販・承認までのプロセスが迅速化)
- ・各クラスターが有する機能や、各団体が取組んでいるプラットフォームの更なる活用・連携(例: DSANJ, MDF, 近畿バイオインダストリー振興会議, リサーチコンプレックス推進プログラム)
- ・国内のみならず海外への効果的なアウトバウンドに向けた、関西が一体となったPRや先行するプロジェクト・構想との連携(例: inochi未来プロジェクト)

柱2

活かす

方向性

異業種横断的連携による新たなビジネス・サービスの創出、健康増進による企業の労働力維持・向上、消費行動促進、それを支える企業やまちの発展、といった好循環を形成する。

具体的なアクション(例)

- ・実務者をターゲットとした情報交換会や、オープンイノベーションに関する取組み(例: 健康科学ビジネス推進機構の活用・推進)
- ・リスクとベネフィットを勘案した健康・医療データ収集やビッグデータの利活用促進に向けた、仕組みの検討と積極的な要望・提言
- ・住民の健康増進に繋がるモデル事業への参画の検討
- ・健康増進に資する賑わい創出のためのエリアマネジメントの推進
- ・東京オリンピック・パラリンピックや関西ワールドマスターズゲームズ2021の開催をきっかけとした、健康増進の環境醸成のためのプロモーションの実施や住民への参加促進

柱3

魅きつける

方向性

都市においては、産業創出に繋がる“知”を集積し繋ぎ合わせる“場”づくりや、健康・医療の国際的イノベーション拠点形成を、また、地域においても健康まちづくりを進め持続可能な社会を築く。これらにより、国内外から人・企業を呼び込む。

具体的なアクション(例)

- ・“知”を集積し繋ぎ合わせる“場”の拡大(例: ナレッジキャピタル)
- ・中核エリアへの高度医療機関(先行例: 国立循環器病研究センター移転)や連携大学院をはじめとした教育機関等の設置推進
- ・持続可能な健康社会への成長をベースに、国際集客・交流、知的人材育成を実現する都市のあり方の具体化
- ・自治体との連携による、「健康・医療・福祉のまちづくり推進ガイドライン」に基づく、各地域の強みや特徴を活かしたデザイン策定
- ・上記を実行することで、関西がより魅力的なエリアに成長 ⇒ 国内外からの人・企業のインバウンド促進(例: 関西広域観光戦略, 関西国際観光推進本部と連携)
- ・ソーシャルキャピタル醸成に向けた取組の入り口として、健康経営に関する勉強会等開催による企業人とその家族の健康維持増進の促進/住民の健康づくり・意識高揚への貢献(例: 住民参加型健康関連イベントとの連携等)

共通

今後の展開

方向性

本ビジョンの実現を目指し、具体的なアクションに関する議論の深掘りと実行を行う。

健康・医療専門委員会をはじめとする経済界の各種プラットフォームならびに産学官連携の枠組みである関西健康・医療創生会議を最大限活用し、一体感を持って行動することで、関西全体がひとつの「健康・医療メガクラスター」として成長し、ビジョンの実現を目指す。

- 「生き活き関西～”健康・医療”先進地域ビジョン」(以下、本ビジョン)は、第53回関西財界セミナー 第1・第2分科会の討議成果として、**2015年2月に策定された。**
- 初年度となる2015年度は、製薬・医療機器をはじめ、スポーツ、食品、ICT、金融などの企業・団体から構成する**「健康・医療専門委員会」を設置し、重点取り組みを含む14のアクションを設定し、着実に実行した。**(次頁詳細)
また、関西広域連合、大学・研究機関、および他の経済団体とともに、**産学官連携の枠組みである「関西健康・医療創生会議」を設立し、本ビジョン実現への本格的な一歩を踏み出した1年**であった。
- 1年間の活動を踏まえ、**本年2月に開催された第54回財セミにおいて討議を行った結果、ビジョン実現に向けた“新たな課題(ソーシャルキャピタルの醸成)”等が明確になり、今後、関西エリアにて産学官“民”による「共創」と「循環」を促すとともに、それを実現するための中核拠点形成や地域づくりを推進するという認識を共有した。**
- よって、**第54回財セミの討議成果ならびに健康・医療分野の環境変化等を反映し、健康・医療/都市再生・特区合同専門委員会にて議論の上、このたび本ビジョンを改訂した。**

ビジョン実現に向けたアクションの進捗状況・動向等（2015年度 取組実績）

区分	主な取り組み	至近の動向、主な成果 等	ビジョンとの関係
イノベーション 推進	<p>① 国家戦略特区における規制緩和要望、および関西国際戦略総合特区における事業推進</p> <p>② 独法等関連機関の関西拠点の設置・機能拡充のための、政府への積極的な要望・提言</p> <p>重点取組項目</p> <p>③ 健康・医療データ収集やビッグデータの利活用促進に向けた取り組み</p>	<p>① <国家戦略特区> 保険外併用療養・病床規制等に係る特例、特区医療機器薬事戦略相談などが認められた。</p> <p><総合特区> 健康・医療分野では、累計37プロジェクトを推進中。 (例:神戸医療産業都市他におけるバイオ医薬品や再生医療製品等の研究開発、国循環替移転に伴う、最先端医療・医療技術開発の拠点となる「オープンイノベーションセンター」の整備 など)</p> <p>② AMED 創薬支援戦略部 西日本統括部が、“うめきた”に設置された。</p> <p>③ 「ビッグデータ利活用促進WG」の組成と検討実施。 健康・医療関連産業全般におけるデータ利活用実現の為の課題抽出 ⇒ 具体的提言項目の抽出・モデル事業実施可能性等について検討を実施。</p>	<p>柱1</p>
PR活動等	<p>重点取組項目</p> <p>・国内のみならず海外への効果的なアウトバウンドに向けた関西が一体となったPR</p>	<p>・H27/11 “inochi未来フォーラム”への参画</p> <p>・H27/12 “創生会議”設立記念シンポジウム開催 (H28/2 “メディカルジャパン2016大阪”に、関経連ブースを出展)</p>	<p>柱2</p>
まちづくり ・基盤整備 ／ 意識づくり	<p>① 健康意識の醸成</p> <p>② 将来の“健康・医療・福祉まちづくり”に向けた取組</p> <p>③ 新たなイノベーション/新産業創出拠点形成に向けた議論</p>	<p>① “関西ワールドマスタースゲームズ”との連携による、健康・スポーツ意識高揚に向けた取組。</p> <p>② 政府にて、コンパクトシティ推進等を盛り込んだ「国土形成計画」「大都市戦略」が策定。大阪府にて、“地域版ヘルスケア協議会”を設立 ⇒ 関経連として参画。</p> <p>③ うめきたⅡ期「まちづくり方針」が策定され、それに合わせて“中核機能”の具体的内容に関する議論が開始。(新産業創出の例示として“健康・医療”が掲げられた) 関経連にて「大阪の都心戦略」を策定。(新たなイノベーション・新産業創出拠点形成について検討継続中)</p>	<p>柱3</p>
産学官連携	<p>・産学官連携の枠組である「関西健康・医療創生会議」設立・運営</p>	<p>井村先生を中心とする大学・研究機関、関西広域連合、経済界が連携しながら、以下の対応を実施。</p> <p>・7月 “創生会議” 設立会合（H27年度事業計画策定）</p> <p>・8月～ 常任幹事会 等開催。</p> <p>・11月 創生会議分科会における事前アンケートを実施</p> <p>・12月 設立記念シンポジウム開催。(再掲) ⇒ 各分科会活動の方向性が明確化された事を受け、今後、産業界の参画を具体化していく。</p>	<p>共通 (柱1・2・3)</p>

用語集

AMED「(独)日本医療研究開発機構」(平成27年4月 設立)

医療分野の研究開発における基礎から実用化までの一貫した研究開発の推進・成果の円滑な実用化及び医療分野の研究開発のための環境の整備を総合的かつ効果的に行うため、医療分野の研究開発及びその環境の整備の実施、助成等の業務を行うことを目的とする。(設立議論の当初は、“日本版NIH”と称されていたこともあった)

PMDA「(独)医薬品医療機器総合機構」

健康被害救済、医薬品や医療機器などの品質・有効性および安全性について治験前から承認までを一貫して指導・審査、市販後における安全性に関する情報の収集・分析・提供を実施。平成25年10月 グランフロント大阪内に、PMDA関西支部が設立。薬事戦略相談(実用化に向けて開発初期からの試験・治験に関する指導・助言)、対面助言(テレビ会議システムによる東京本部との連携)、GMP実地調査(適切な製造管理及び品質管理が行われているか、国内外の製造所に対して実施する調査)を実施中。

DSANJ「創薬シーズ・基盤技術アライアンスネットワーク」

創薬シーズ・基盤技術、バイオマーカー・診断薬・試薬の研究・開発成果を、独立してその情報を収集、蓄積した上で日本の製薬企業に紹介し、国内での創薬活動を促進するためのプログラム。データベース事業とビジネスミーティング事業により構成されている。

MDF「次世代医療システム産業化フォーラム」

医療機器事業化支援サービスをはじめとし、医工連携活動や事業化支援、将来的に海外市場もターゲットとした医療機器の開発や事業化促進。

リサーチコンプレックス推進プログラム「世界に誇る地域発研究開発・実証拠点(リサーチコンプレックス)推進プログラム」

科学技術振興機構(JST)の平成27年度新規事業。理化学研究所が中核機関として兵庫県及び神戸市、12大学・研究機関、35社・団体とともに提案した「健康“生き活き”羅針盤リサーチコンプレックス」が本採択された。(事業概要：“ヒト”に関する解析データ等の統合的な理解を進め、将来の自分の健康状態を予測するために必要なコンピューター上での仮想自身の構築) また、けいはんな学研都市もFS拠点として暫定採択された。

inochi未来プロジェクト

医療者・行政・企業・市民・患者、皆で「未来医療健康都市・関西」の実現を目指すプロジェクト。関西・日本の医療のブランド化・国際化と、市民の健康意識啓発・生活習慣改善に貢献。

健康科学ビジネス推進機構

世界に先駆けてエビデンス獲得システムやその評価システムを確立し、健康科学産業の一大拠点を形成するため、ビジネス創造におけるエビデンス構築・評価の推進基盤として設立。エビデンス構築支援、ビジネス創出・推進支援、人材育成・普及啓発等を実施。

関西ワールドマスタースゲームズ2021

国際マスタースゲームズ協会(IMGA)が4年ごとに主催する、30才以上の成人・中高年の一般アスリートを対象とした生涯スポーツの国際総合競技大会。2021年には、アジアで初めて日本⇒関西開催が決定。目標参加者数約5万人。

関西の主なバイオクラスター

北大阪バイオクラスター、神戸医療産業都市、播磨科学公園都市、けいはんな学研都市、京都バイオシティ、長浜バイオクラスター

関西広域観光戦略(はなやか関西)

関西広域連合や関西地域振興財団と協力して関西全体の魅力を一体的に国内外へPRするための取組み

関西国際観光推進本部(平成28年3月 設立)

関西の官民が一体となって、外国人旅行者の誘致を推進するための母体として設立。関西の自治体、経済団体、業界団体・事業者、観光推進団体など52団体に加え、オブザーバーとして国の出先機関など8団体が参画し、関西へのさらなる誘客に向けた指針と行動計画を策定するとともに、広域観光周遊ルート形成促進事業「美の伝説」や訪日外国人旅行者向け関西統一交通パス「KANSAI ONE PASS」事業、無料Wi-Fiの整備といったプロジェクトを推進。

関西健康・医療創生会議

第53回関西財界セミナー 第1・2分科会における井村裕夫 第29回日本医学会総会2015関西 会頭からの提言を受け、2015年7月に、医学部・医科大学・研究機関(計18機関)、関西広域連合、5 経済団体にて、健康長寿に向けた健康・医療の新たなしくみづくり、モデルの開発の実現をめざすためのプラットフォームとして設立。①医療情報、②遠隔医療、③少子高齢社会のまちづくり、④認知症への対策、⑤人材育成をテーマとした5つの分科会で具体的な取り組みを進める。